

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H29事例－

暴力行為事例（小学校）

1 A男（5年生）は、ほぼ毎日遅刻をするが、欠席したことは一度も無い。しかし、登校しても、
2 教室にはほとんど入らず、特別教室や体育館、グラウンドなど気ままに歩き回って好きに遊んで
3 過ごしていることが多い。授業に入っても、席に座ることも静かにしていることはできず、注意
4 する教員に暴言を吐いたり、机やイス等で大きな音を出して威嚇したりして授業を妨害し、10
5 分も経たないうちに退室して、ひときわ騒々しく校内を徘徊することが続いている。

6 4年生の時の担任によると、2学期頃から教員に反抗的になり、同級生とのトラブルが増え、
7 勉強に興味を示さなくなったたそうである。また、両親は離婚（時期不明）しているが、A男が
8 「お父さん」と呼ぶ男性が時々、自宅に出入りしていることなどが、引き継ぎの記録に残ってい
9 た。

10 2学期の初日、運動会の応援歌を決める際、A男は気分が高揚して自分の歌いたい曲名を高圧
11 的に言い放っていた。司会の児童が進行に困っている様子を見かねた担任のB教諭が「A男、話
12 し合って決める時間だ！」と、少々きつめに注意した。A男は「うるせーB！お前が黙れ！」と
13 返した。B教諭が「A男がうるさいから話が進まなく・・・」と話している最中、A男は近くのイ
14 スを思いっきり蹴り飛ばした。そのイスは、近くのD子に相当強く当たった。B教諭が「A男！」
15 と叫んだ瞬間、A男はB教諭に掴みかかり大声で喚きながら殴る蹴るの暴行を加えた。しばらく
16 取っ組み合いが続いているところに、数名の教員が教室に駆け付け、A男をB教諭から引き離し、
17 爆発的に暴れるA男を緊急的に力で押さえつけた。その場で養護教諭は、D子が骨折の疑いがある
18 こと、B教諭は頭を強く殴られていることから、救急搬送の必要があると校長に報告し、救急
19 車の要請をした。その間、A男を教室から連れ出し別室に入れて、複数名で対応した。

20 一連の話を聞いた生徒指導担当のC教諭は緊急に生徒指導委員会を開き、校長の了解を得て、
21 以下のように指示した。

- 22 ・校長は教育委員会に報告し、今後の助言を受ける。
- 23 ・教頭はD子の保護者に連絡し、病院で合流して事情説明する。
- 24 ・D子とB教諭は教頭が依頼した救急車で病院に行き治療を受け、診断書を取る。
- 25 ・養護教諭はD子とB教諭のケガの状態を記録し、病院に同行する。
- 26 ・C教諭はA男の母親に電話で事情を説明し、A男の引き取りを依頼する。
- 27 ・教務主任は学級を落ち着かせることに努め、情報を整理する。

28 夕方、B教諭、養護教諭、教頭が帰校してきてから、緊急の職員会議で情報共有し、その後の
29 生徒指導委員会で以下のように対応することにした。

- 30 ・A男はしばらくの間、別室で授業を受ける。（主に教頭と教務主任が対応する。）
- 31 ・事案は学校として警察に被害届を提出する。状況説明のため担当者の来校を依頼する。
- 32 ・A男の教室復帰は、保護者同席の基、D子とB教諭へ謝罪し、学校での過ごし方について約
33 束を取り付けてからとする。
- 34 ・全職員でD子へのケアと、クラスへの丁寧なフォローアップを行う。

35 時計は20時を過ぎようとしていたが、C教諭が電話でA男の母親に再度来校を依頼した。

36 間もなく学校の玄関前に爆音とともに一台の車が止まり、「お父さん」らしき人物と、恐る恐
37 る降りてくる母親と顔面蒼白で唇を腫らしたA男がいた。

38 「お父さん」は興奮した様子で「A男にはD子とB教諭に土下座をさせる。」「別室授業は納得
39 できない。」「A男が暴れたのはB教諭の対応が悪いせいだ。B教諭の土下座での謝罪を求める。」
40 「A男に暴行を加えた学校を訴える。」と、立て続けに言い放った。

41 校長は、A男の土下座による謝罪も、B教諭の謝罪も断り、毅然とした態度で「お父さん」の
42 退室を要求した。そして、状況説明を受けに来校していた警察の担当者は「お父さん」と話をし
43 たい旨を伝え、別室に連れ出した。

44 直後にA男は大粒の涙を流しながら、「お父さん」に殴られたこと、家での生活は怖いこと、
45 母親が庇ってくれて嬉しかったことや、学校への切実な思いをゆっくり話し始めた。

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H29事例－

暴力行為事例（中学校）

1 A男（2年生）は、ほぼ毎日遅刻をするが、欠席したことは一度も無い。しかし、登校しても、
2 教室にはほとんど入らず、廊下や階段の踊り場、体育館の裏など人目の付きにくい場所でたむろ
3 して飲食や喫煙をしていることが多い。授業に入っても、席に座ることも静かにしていることも
4 できず、注意する教員に暴言を吐いたり、机やイス等で大きな音を出して威嚇したりして授業を
5 妨害し、10分も経たないうちに退室して、ひときわ騒々しく校内を徘徊することが続いている。

6 小学校からは、4年生2学期頃から教員に反抗的になり、同級生とトラブルが増えてきたこと、
7 勉強にも興味を示さなくなったこと、両親は離婚（時期不明）しているが、A男が「お父さん」
8 と呼ぶ男性が時々、自宅に出入りしていることなどが、引き継がれていた。

9 2学期の初日、運動会の出場種目を決める際、A男は気分が高揚して自分の出場したい種目を
10 脅迫的に言い放っていた。司会の生徒が進行に困っている様子を見かねた担任のB教諭が「A男、
11 みんなで話し合って決める時間だ！」と、少々きつめに注意した。A男は「うるせーB！お前が
12 黙れ！」と返した。B教諭が「A男がうるさいから話が進まなく・・・」と話している最中、A男
13 は近くのイスを思いっきり蹴り飛ばした。そのイスは近くのD子に相当強く当たった。B教諭が
14 「A男！」と叫んだ瞬間、A男はB教諭に掴みかかり何か喚きながら殴る蹴るの暴行を加えた。
15 しばらく取っ組み合いが続いているところに、数名の教員が教室に駆け付け、A男をB教諭から
16 引き離し、爆発的に暴れるA男を緊急的に力で押さえつけた。

17 その後、A男を教室から連れ出し、別室に入れ、複数名で対応した。一連の話を聞いた、生徒
18 指導主事のC教諭は緊急に生徒指導委員会を開き、校長の了解を得て、以下のように指示した。

19 ・校長は警察に通報し、学校として被害届を出す。教育委員会に報告し今後の指示を受ける。

20 （警察には状況説明のため来校を依頼する。）

21 ・D子とB教諭は教頭が依頼した救急車で病院に行き治療を受け、診断書を取る。

22 ・養護教諭はD子とB教諭のケガの状態を記録し、病院に同行する。

23 ・C教諭はA男の母親に電話で事情を説明し、A男の引き取りを依頼する。

24 ・副担任と学年団生徒指導担当は学級を落ち着かせることに努め、情報を整理する。

25 ・学年主任はD子の保護者に連絡し、病院で合流して事情説明する。

26 夕方、B教諭と養護教諭、学年主任が帰校してきてから、緊急の職員会議で情報共有し、その
27 後の生徒指導委員会で以下のように対応をすることにした。

28 ・A男は母親の了解を得て、自宅で過ごす。学習保障を付す。

29 ・A男の法的な処分は警察と児童相談所に任せる。

30 ・A男の再登校は、保護者同席の基、D子とB教諭へ謝罪し、学校での過ごし方について約束
31 を取り付けてからとする。

32 ・全職員でD子へのケアと、クラスへの丁寧なフォローアップを行う。

33 時計は20時を過ぎようとしていたが、C教諭が電話でA男の母親に再度来校を依頼した。

34 間もなく学校の玄関前に爆音とともに一台の車が止まり、「お父さん」らしき人物と、恐る恐
35 る降りてくる母親と顔面蒼白で唇を腫らしたA男がいた。

36 「お父さん」は興奮した様子で「A男にはD子とB教諭に土下座をさせる。」「学校を休ませる
37 ことは納得できない。」「絶対に教室に入らせる。」「A男が暴れたのはB教諭の対応が悪いせいだ。
38 B教諭の土下座での謝罪を求める。」「A男に暴行を加えた学校を訴える。」と立て続けに言い放
39 った。

40 校長は、A男の土下座による謝罪も、B教諭の謝罪も断り、毅然とした態度で「お父さん」の
41 退室を要求した。そして、状況説明を受けに来校していた警察の担当者は「お父さん」と話をし
42 たい旨を伝え、別室に連れ出した。

43 直後にA男は大粒の涙を流しながら、「お父さん」に殴られたこと、家での生活は怖いこと、
44 母親が庇ってくれて嬉しかったことや、学校への切実な思いをゆっくり話し始めた。

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H29事例－

暴力行為事例（高等学校）

1 A男（2年生）は、ほぼ毎日遅刻をするが、欠席したことは一度も無い。しかし、学校におい
2 ては授業中の立ち歩きや私語が甚だしく、教師の指導はほとんど入らない状態で、暴言を吐いた
3 り、机やイス等で大きな音を出して威嚇したりする。時には、教室から出て、体育館の裏など人
4 目の付きにくい場所で飲食や喫煙をしている疑いがある。

5 また、校外では有職無職少年との付き合いが多く、男女を問わず友人宅に泊まり歩いており、
6 学校警察連絡協議会においても素行不良ありの情報連携の対象者となっている。

7 中学校からは「教員に反抗的で、同級生とトラブルが多い。将来は楽に稼げる仕事に就きたい
8 と言っている。両親は離婚（時期不明）しているが、A男が「オヤジ」と呼ぶ男性が時々、自宅
9 に入出入りしている。」などの引き継ぎの記録が残っていた。

10 2学期の初日、体育祭の出場種目を決める際、A男は気分が高揚して自分の出場したい種目を
11 脅迫的に言い放っていた。司会の生徒が進行に困っている様子を見かねた担任のB教諭が「A男、
12 みんなで決める時間だ！」と、少々きつめに注意した。A男は「うるせーB！お前は黙っとけ！」
13 と返した。B教諭が「A男がうるさいから・・・」と話しかけた時、A男は近くのイスを思いっき
14 り蹴り飛ばした。そのイスは近くのD子に相当強く当たった。B教諭が「A男！」と叫んだ瞬間、
15 A男はB教諭に掴みかかり大声で怒鳴りながら殴る蹴るの暴行を加えた。しばらく取っ組み合い
16 が続いているところへ、数名の教員が教室に駆け付け、A男をB教諭から引き離し、爆発的に暴
17 れているA男を緊急的に力で押さえつけた。

18 その後、A男を教室から連れ出し、別室に入れ、複数名で対応した。一連の話を聞いた、生徒
19 課長のC教諭は緊急に集まれる生徒課会議を開き、校長の了解の基、以下のように指示した。

20 ・校長は警察に通報し学校として被害届を出す。県教育委員会に報告し今後の指示を受ける。

21 （警察には状況説明のため来校を依頼する。）

22 ・D子とB教諭は救急車で病院に行き治療を受け、診断書を取る。

23 ・養護教諭はD子とB教諭のケガの状態を記録し、病院に同行する。

24 ・C教諭はA男の母親に電話で事情を説明し、A男の引き取りを依頼する。

25 ・副担任と学年団生徒課教諭は学級を落ち着かせることに努め、情報を整理する。

26 ・学年主任はD子の保護者に連絡し、病院で合流して事情説明する。

27 夕方、B教諭と養護教諭、学年主任が帰校してきてから、緊急の職員会議で情報共有し、その
28 後の生徒課会議で次のように対応することにした。

29 ・A男は特別指導の対象として、法的な処分が決定するまで自宅で過ごす。反省課題を付す。

30 ・A男の法的な処分は警察に任せる。

31 ・A男の教室復帰は、保護者同席の基、D子とB教諭への謝罪ができてから、学校での過ごし
32 方について約束を取り付けてからとする。

33 ・全職員でD子へのケアと、クラスへの丁寧なフォローアップを行う。

34 時計は20時を過ぎようとしていたが、C教諭が電話でA男の母親に再度来校を依頼した。

35 間もなく学校の玄関前に爆音とともに一台の車が止まり、「オヤジ」らしき人物と、恐る恐る
36 降りてくる母親と顔面蒼白で唇を腫らしたA男がいた。

37 「オヤジ」は興奮した様子で「A男にはD子とB教諭に土下座をさせる。」「自宅謹慎は納得で
38 きない。」「A男が暴れたのはB教諭の対応が悪いせいだ。B教諭の土下座での謝罪を求める。」「A
39 男に暴行を加えた学校を訴える。」と立て続けに言い放った。

40 校長は、A男の土下座による謝罪も、B教諭の謝罪も断り、毅然とした態度で「オヤジ」の退
41 室を要求した。そして、状況説明を受けに来校していた警察の担当者は「お父さん」と話をした
42 い旨を伝え、別室に連れ出した。

43 直後にA男は大粒の涙を流し「オヤジ」に殴られたこと、母親が庇ってくれて嬉しかったこと、
44 安心できる家庭生活ではないことや、学校への切実な思いをゆっくり話し始めた。